

丹波篠山市における今後の新型コロナ対策について

渡辺拓道

新型コロナウイルスの脅威と医療崩壊防止対策の実施によりコロナ禍が長期になってきている。国、地方自治体における社会の底支えとワクチン接種の開始によりアフターコロナへの光が見えつつあるものの、市民生活の中にはストレスと将来不安が継続している。

このため、行うべき対策は、現時点での丹波篠山社会のきめ細やかな底支えと、アフターコロナ社会につながる事が重要となる。

現在、本市市民に向けたコロナ対策についてのアンケートを実施している（2月10～3月1日）。現時点での回答の中間状況を概観するとともに今後の国の対策の方向性を参考に、本市の行うべき新型コロナ対策を提案する（総額82,620千円）。なお、政務活動として行っている前出のアンケート結果が出た時点で追加の対策も要請したいと考えている。

感染症対策**① ワクチン接種支援事業（17,060千円）**

市民4万人の接種を円滑に行うには、接種に直接従事いただく医療機関、関係者の負担軽減が必須である。ワクチン接種事業は国の事業であるが、接種に対する不安解消は大きく、タイムリーな情報発信と一般的な事前相談について充実させることが早期の集団免疫獲得につながる。

また、市民向けアンケートによる「定額給付金の使途」に対する回答状況は、昨年6月に実施されたニッセイ基礎研究所の結果と類似の傾向が見られる。同研究所の結果では、高齢者は他世代に比して定額給付金を衛生資材の購入に多く当てていて、衛生資材の購入費が家計の負担になっている。この状況は、本市においても同様の傾向があると考えられる。この家計負担の軽減とワクチン接種のインセンティブづくりを行う。

（事業内容）

- ・ワクチンニュースの毎月発行（350千円）*WEBにも同時掲載
毎月2万部（A4枚）広報折込み等 2万部×7回×2.5円
- ・電話メールワクチン相談（2,210千円）
電話回線2×7か月（210） 人件費2名×7か月（2,100）
- ・高齢者向け不織布マスク配布（14,500千円）
マスク14,500箱×1,000 *基礎疾患等で接種できない高齢者にも配布

② 感染対策見える化事業 (1,100 千円)

見えないウイルスに対する不安のために、市民活動が極端に縮小してしまっている。今後の市民活動の順調な回復のために換気状況を目視できるCO₂濃度計を集会施設（市民館、コミセン等）に整備していく。まずは、効果把握と検証のために第1次の導入を行う。

- ・二酸化炭素濃度計購入
濃度計 100 台×11,000 円

生活支援対策

③ デジタル技術利用促進事業 (3,930 千円)

コロナ禍において外出が制限される中、外部情報の収集や人とのつながりにスマートフォン等の情報端末の重要性が認識されるようになった。社会全般のデジタル化に伴い行政のデジタル化も避けられなくなってきており、その際に課題となるのは情報弱者になりかねない高齢者への対応である。

このため、コロナ後のさらなる情報化社会に向けて高齢者のデジタル技術の利用を支援する。

- ・シニア向けスマートフォンセミナー (3,930 千円) 別紙参照

→まるいのお年玉クーポンの活用分析について作業途中であり、追加の生活支援対策について後日に提案予定。

経済対策

④ 製造業等経営継続支援事業 (58,000 千円)

コロナ対策により多額の公的資金が市場に投入された結果、実体経済と離れて株価が高騰してきている。今後心配されるのは、感染が落ち着き、公的資金投入がなくなった時の景気悪化である。現在、市内製造業者は先行き不透明な中で厳しい経営を余儀なくされている。

また、実施したアンケート回答には、「商工会への支援の取り組みがこれまでであったが、商業（特に飲食）やサービス業を意識したメニューであり不満を感じている。」「苦しい中でも納税に努めているのに一律の支援に納得いかない。」などの声が寄せられている。

これらのことを考慮し、また新たな部門への事業展開を応援するために、固定資産税の内、償却資産税納付額に応じた経営継続奨励金（納付額の10%）を設ける。奨励金対象者約500社（者）であり、製造業に限らず設備投資を行い雇用を支える事業者全般の

支援につながる。

- ・経営継続奨励金（56,000 千円）*原則 R2 納税額に基づき算出
償却資産税 560,000 千円×10%
- ・奨励金支給事務費（2,000 千円）

特産物対策

コロナ後の社会の変化で大きな影響を受ける可能性が高いのは丹波茶と地酒と考える。このため、特産対策の中でも重点的な取り組みが求められる。

⑤ 丹波茶総合振興事業（1,550 千円）

コロナ禍の影響で丹波茶の消費形態が大きく変わり、売り上げの減少が生産縮小につながる負のスパイラルの入り口にある。この度、次期作支援金の配分が見込めるようになったが対処的に終わる可能性が高い。このため、中長期の継続した生産対策、製造対策、出口対策が必要である。計画期間を5年とした丹波茶振興計画を作成し、計画推進のための財源措置（5か年で30,000千円程度）を講じる。

また、茶葉（特に煎茶）に含まれるカテキンのウィルス殺菌力、免疫力向上力を量販店や行政関係施設で紹介しながら丹波篠山暮らしと丹波茶を結びつける。

- ・丹波茶振興計画策定費（500 千円）
- ・丹波茶成分分析（カテキン量等・300 千円）
- ・丹波茶カテキンフェア（750 千円）

印刷費 300 千円 ブース製作費・サンプル料 200 千円 量販店委託料 250 千円

⑥ 地酒販促支援事業（980 千円）

次期の仕込みの正常化に向けての販促を支援する。丹波篠山の地酒、杜氏文化を組みポスターを作成し視覚的にアピールする。

- ・ポスター制作印刷費（980 千円）
70 枚×7 種×2,000 円